

# 平成23年度学生生活実態調査報告書の概要

平成24年8月

1. 調査の目的 本学学生 of 生活環境・学習環境の現状を把握し、それによって、本学学生 of 修学・厚生補導等に関する企画立案の行うための基礎的資料を得ることを目的として実施したものである。
2. 調査の対象 平成23年10月1日現在の各学部 to 在籍する学生と各学府 to 在籍する大学院生を対象とした。  
ただし、休学者、外国人留学生及び社会人学生は対象から除いた。
3. 調査の期間 平成23年10月7日（金）～平成23年10月31日（月）
4. 調査の方法 学生が学内外から、ウェブアンケート専用アプリケーションシステムへ直接アクセスし、回答したデータをサーバに蓄積のうえ、データを取り出して集計した。
5. 回答結果
  - (1) 対象者数 16,342名（学部学生 11,408名、大学院生 4,934名）
  - (2) 有効回答数 3,195名（学部学生 2,135名、大学院生 1,060名）
  - (3) 回答率 19.6%（学部学生 18.7%、大学院生 21.5%）
6. アンケート回答の結果概要
  - (1) 住居について
    - ①住居の形態については、学部学生が一人暮らし（アパート等）62%、自宅28%に対し、大学院生は一人暮らし65%、自宅25%である。
    - ②部屋を選ぶ条件としては、学部学生、大学院生ともに、「部屋代」が最も重要な点であった。次いで、「通学の便」、「部屋の設備」であった。
    - ③一人暮らしが6割を超えているにもかかわらず、学生寄宿舍入居希望が学部学生12%、大学院生11%と少ない。その理由として、「集団生活がわずらわしい」の次に、「交通・生活面で不便」が多いことは注目すべき点であり、大学としての対策が望まれる。
  - (2) 通学・事故等について
    - ①主な通学手段は、学部学生、大学院生ともに自転車通学が最も多い。徒歩、バイクの他、地下鉄、電車やバスなどの公共交通機関の利用者も多かった。自動車通学は、学部学生よりも、大学院生に多いのは特徴的である。
    - ②通学時間は、学部学生、大学院生ともに、15分以内の率が高く、多くの学生が近隣に住んでいることがわかる。1時間半以内の割合をみると、学部学生89%、大学院生94%となっている。
    - ③キャンパス間移動時の交通事故は、学部学生3%、大学院生5%が事故の経験者であった。特に、原付バイク、自動二輪車の運転中に多かった。

### (3) 食事について

- ①朝食を「毎日食べている」「だいたい食べている」の割合は、学部学生 67%、大学院生 54% となっており、「ときどき食べる」「ほとんど食べていない」の理由としては、学部学生、大学院生とも、「時間がない」が圧倒的に多かった。
- ②学内食堂の利用としては、昼食が最も多く、朝食・夕食の利用者は少ない。

### (4) 健康管理について

- ①現在の体調の間に対して、学部学生、大学院生とも7割以上の学生が体調に「問題はない」と回答している。「病気とは思えないが、何か調子が悪い」との回答が13%あった。
- ②喫煙については、学部学生の89%、大学院生の85%が非喫煙者であった。

### (5) 悩みについて

- ①学部学生の55%、大学院生57%が「現在悩んでいることがある」と回答している。悩みとしては、「将来の進路のこと」が最も多く、次いで、「勉強上のこと」である。
- ②友人関係については、心をうちあけることができる友人いる学生は、学部学生が76%、大学院生が78%であった。  
内訳としては、「小・中・高校時代からの友人」「クラス、ゼミ、研究室の仲間」「課外活動(サークル等)の仲間」が多かった。

### (6) 生活について

- ①多くの学生の睡眠時間が5~7時間であり、学部学生、大学院生の間にはほとんど差はなかった。
- ②休日の登校については、およそ2週間に1回以上、土日に大学に行く日があると回答した学生は、学部学生が半数以上、大学院生が7割近くであった。登校する理由としては、学部学生は勉強、課外活動が半々であったが、大学院生の場合は、6割が勉強のためであった。
- ③大学生生活の満足度では、学部学生・大学院生の7割程度が「満足している」「まあまあ満足している」と回答しており、「不満である」は2%であった。

### (7) 収入・支出について

- ①平均収入を金額で見ると、学部学生、大学院生ともに「家庭からの送金」が最も多く、日本学生支援機構をはじめとした「奨学金」も大きな割合を占めている。学部学生では、「アルバイト」の収入が多い一方で、大学院生はTA、RA及び日本学術振興会特別研究員としての収入が特徴的である。
- ②「家庭からの送金のみで修学可能」は、学部学生では4割強、大学院生では3割強であった。一方で、大学院生については、「家庭からの送金のみでは修学困難」と「家庭からの送金はない」の回答を合わせると5割近くを占めており、家庭からの送金に頼れない(もしくは頼っていない)状況が多い。

### (8) アルバイトについて

- ①学部学生、大学院生ともに、最も大きな比率を占めたのは現在アルバイトを「していない」で

あり、学部学生で 39%、大学院生で 50.6%であった。次いで、「長期のアルバイトをしている」であり、学部学生で 35.9%、大学院生で 26.9%であった。

- ②アルバイトと学業との関係では、学部学生、大学院生ともに「ほとんど支障はない」が最も多かった。アルバイトを行うことで犠牲にするものは、学部学生では教養・娯楽といった余暇時間や自宅学習の時間が、大学院生では余暇時間と睡眠時間が、それぞれ相対的に多い。

#### (9) サークル活動について

- ①サークル活動等への参加割合は、学部学生のおよそ 7 割、大学院生の 3 割程度であった。
- ②サークル活動等の満足度は、学部学生、大学院生ともに 8 割前後の学生が「非常に満足」「満足」と回答している。
- ③キャンパス移転に伴う困難はあるものの、課外活動施設の充実に伴ってサークル活動等の中心が伊都キャンパスに移りつつある。

#### (10) 大学の環境・施設について

- ①通学しているキャンパスの施設への満足度は、学部学生、大学院生ともに 5 割教が「満足している」「まあまあ満足している」と回答している。
- ②充実を希望する施設としては、「福利厚生施設（食堂・売店など）」が最も多く、次いで、「講義室・実験室・研究室」及び「駐輪・駐車場」であった。

#### (11) 入学・授業等関係について

- ①入学（進学）した理由として、学部学生は「学問・研究」、大学院生は「研究を究めたい」が最も多かった。
- ②大学院生に対しての研究環境への満足度は、「満足している」「まあまあ満足している」と回答した学生が 65%であり、「やや不満である」「不満」は 14%であった。不満の理由は研究指導以外に、文系では「演習・講義内容」、理系では「施設・設備」であった。
- ③志望決定する時に知りたかった情報は、「学部（府）・学科内容」、「授業内容」及び「就職状況」の他に、学部学生は、「課外（サークル等）活動」、大学院生では、「九大の在籍教員」に関する情報であった。
- ④学部学生の転学部・転学科等の希望者は 2 割弱で、その半数以上が「専攻分野が自分に合わない」と回答している。一方、大学院生は 1 割強が「大学院（文系）あるいは研究室（理系）を変えたい」と回答し、その理由の内最も多かったのは「教員と合わない」であった。
- ⑤教員に対する期待は、学部学生では 5 割近くが「わかりやすく教えてほしい」、大学院生では 3 割強が「良き教育者であってほしい」であった。

#### (12) 図書館について

- ①利用目的については、学部学生では、「試験勉強」5 割、「予習・復習」3 割と学習の場所として利用している。大学院生では、「学術図書（雑誌）の閲覧」4 割強、「学術図書（雑誌）の貸出」4 割強と研究の文献・資料収集のための利用が中心である。また、近年インターネットの利用が増加している。

- ②利用時間については、学部学生、大学院生ともに1週に「1時間未満」が最も多かった。
- ③新入生対象の図書館ツアーの効果か、図書館の自主的学習環境の活用が進みつつある。

(13) 卒業後の進路について

- ①卒業（修了）後の進路希望については、学部学生が「進学」39%、「就職」32%であり、大学院生は、「就職」が最も多く71%であった。
- ②将来、就きたい職業としては、学部学生、大学院生ともに「企業における技術研究職」が圧倒的に多く、それ以外では、学部学生は公務員や専門職を、大学院生は大学や公的機関の研究職を志向している。

(14) 海外渡航・国際交流について

- ①入学後の海外渡航の経験については、学部学生で31.8%、大学院生で49.5%が渡航経験がある。
- ②海外渡航の目的としては、学部学生は「観光」が最も多く、大学院生は「学会発表」や「学術調査」が多かった。
- ③英語（または外国語）の会話ができると回答した学生は、学部学生で35%、大学院生で44%であった。

(15) 大学生活の満足度について

- ①学生に対する相談窓口や支援サービスについては、一部30%の満足度が得られている大学院生の学習相談以外は、学部・院ともに2割を下回っている。一方で、これらの支援サービスについて、知っているが利用したことはない学生も3割から4割いる。
- ②学生に対する各種相談窓口や支援サービスについて、「知っているが利用したことがない」と回答した学生は、3割から4割であった。

(16) 本調査について（自由記述）

- ①アンケートを取る意味や使用目的をきちんと説明すべき。
- ②項目が多い。時間を取られる。途中から真剣さに欠けてしまう。
- ③調査結果をきちんと大学の改善に活かしてほしい。

(17) 大学の経済支援などの諸制度について（自由記述）

- ①授業料の全額免除も行うべき。
- ②無利子の奨学金や給付の奨学金の整備。
- ③全国大会に参加するサークルへの支援を望む。

(18) 大学移転について（自由記述）

- ①移動に要する交通費がかかって困る。交通手段の充実を希望する。
- ②キャンパス間の移動時間がもったいない。
- ③興味のある講義が、別キャンパスで隣り合うコマに開講されると受講できない。

(19) その他（自由記述）

- ①全学教育のカリキュラム再検討。全学教育のクオリティを高めてほしい。全学部の教員が参加すべき。
- ②インターネット環境の整備。Mac 以外のマシンの充実。
- ③建物や施設，教室の美化やメンテナンスに努めてほしい。